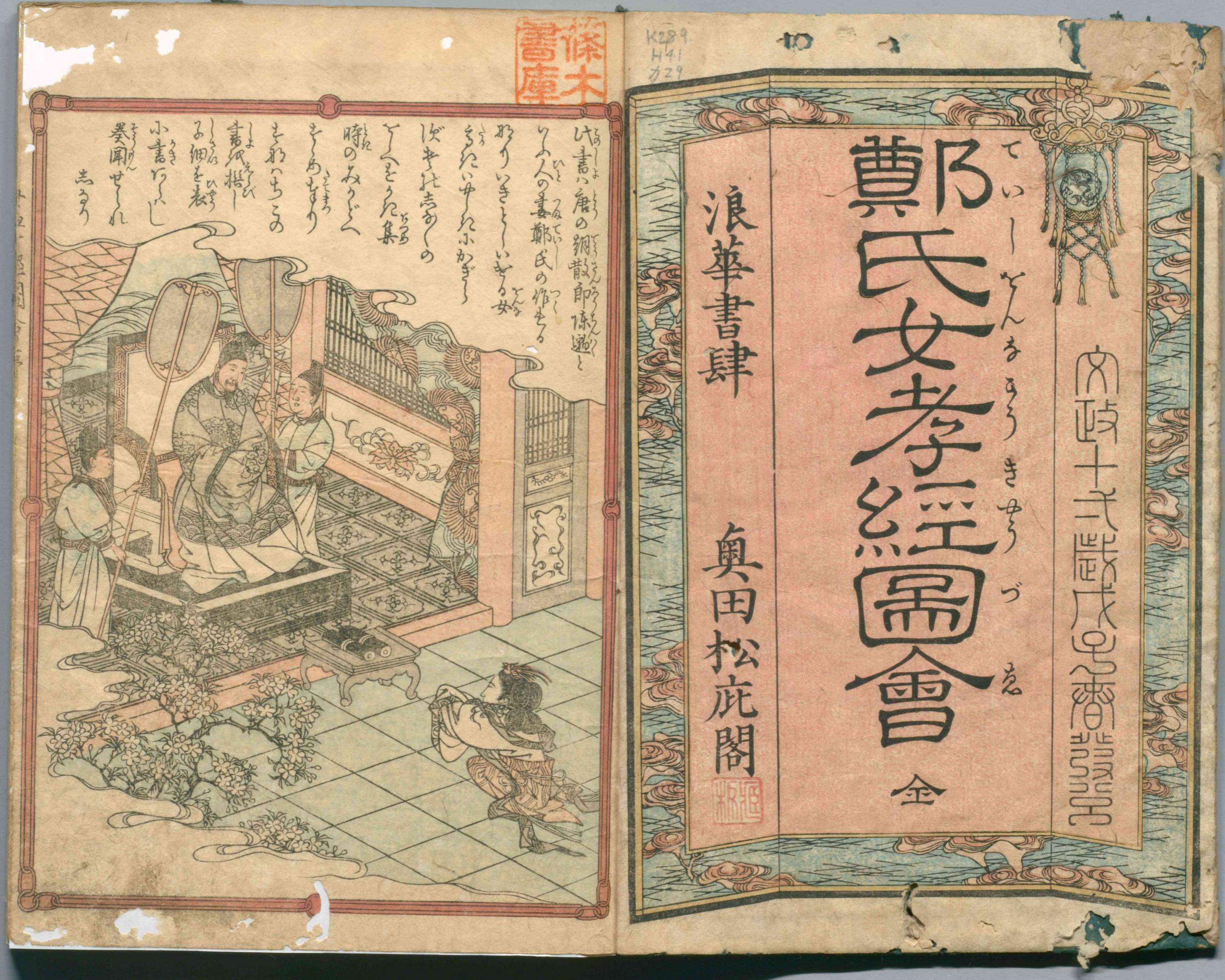


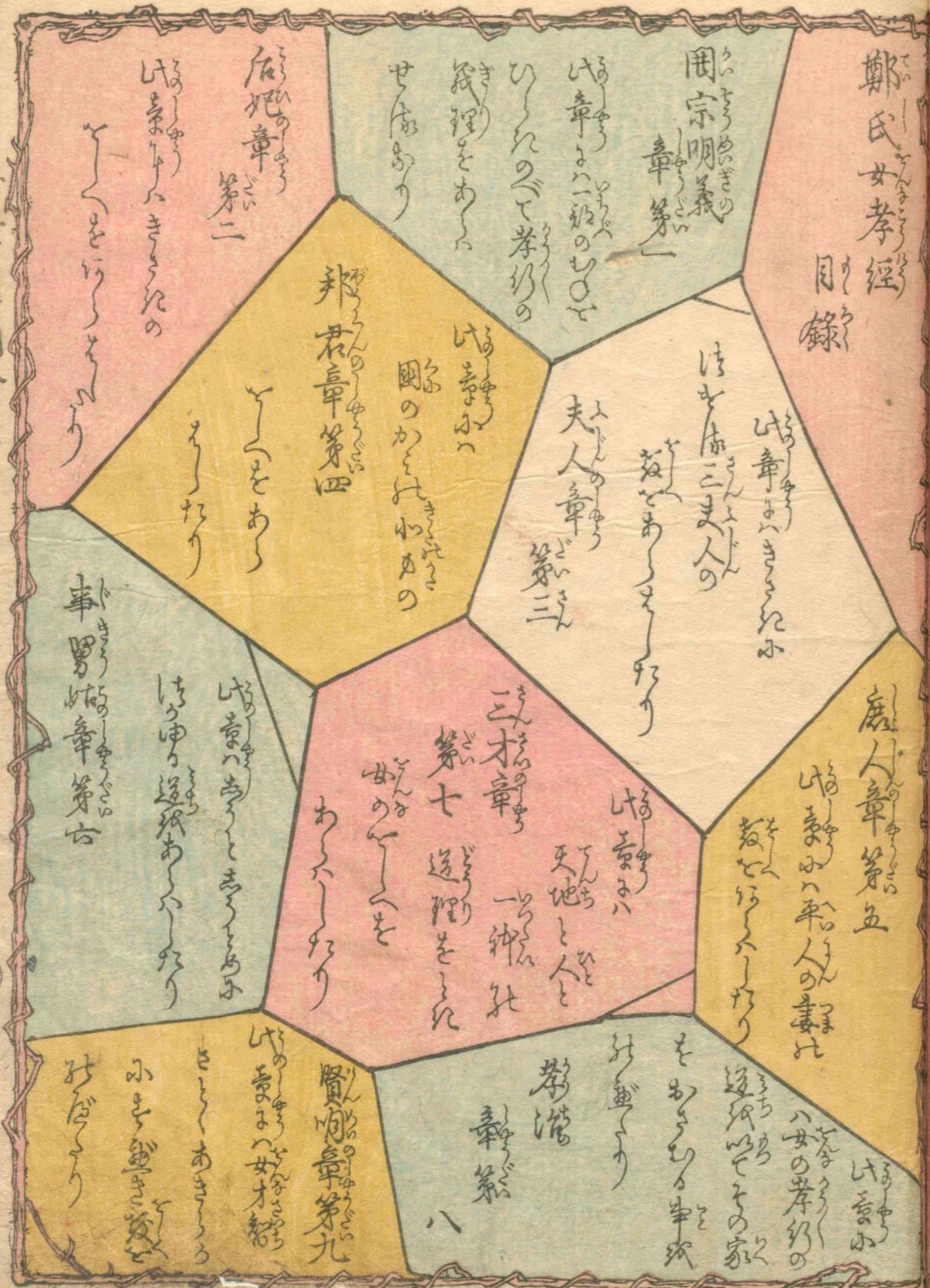
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



唐進女孝經表

支天乎陽小一てはく地乎陰小一ヤリシ那乘陰乎陽
小陰ひやリシ那乎陰乎小一ヤリシ那乘陰乎陽
に支婦恩乎遠乎天地陰陽小一トシホシ此母也女乎支
ナゲル事モヤシム遠程乎素乎義智信五事ニバ
キス人恩をあく事モハニウ道ヨリ内ノ所外ニテハ孝
行ノリタツヒ道乎行ノリテ有りテ德歟ノリナキ也
感歎シ免免神乎勅シモリ半死タヤリテアリテアリ
カジシヌれ皆骨脣の事ナリナキタマアリ支小もシテアリ
多シモナリシギリテアリ娘のまよはシテアリナシモリ
ト奉リ精レ體行をナシ行ナシ行ナシ一人もナシモリ
比娘ぬけは實を我一人トモモシナリナシモリナシモリ
小娘ナリシギリテアリナシモリナシモリナシモリ
目送リキ被ばかの娘我ぬを殺シキアホシテテ娘死殺セ
モトロヒシキ圓ちの意欲の景公ニシテアリシテアリ
キム年いのれりシキシキムナハ吾ぬを殺シキアホシテテ
中室正きもとて朕不殺也キシキムナハ吾ぬを殺シキ
ナリシキキシキムナハ吾ぬを殺シキアホシテテ
ノモニミテ御正通也キシキムナハ吾ぬを殺シキアホシテテ
勤シテカクナリ承の承不殺テテアリテ京を城ともあひま

まき海をあたへてありあら来儀のとやうからせありみ徳をせ
をうごく所幸ふれううむぢやまと大舞とよすふる人
ちどり事はずに農人の身はほしくさんども大なりのあ
徳ましりゆもあつて帝堯玉神をわすがたを能ひじと
ときぬひゑすれゆば至たまし天神地祇宗廟のまつま
形をもえたましり大舞ありひまこを以ほしてあつ
たす舞ゆる神峰をまつまえ郊廟の庭よあやうぐる
ゑて能くとあ樂う舞香りの徳光神を感ぜしむき
小河うちあやんるけおこねひ其もあくちやうじく我
えんじんくとまづどひきうめをもて五輪
焉居又すま舞見才朋友の道ふをだき中からま舞の道車
人倫のそぞらすむをまつまけ道理をわきはへたりてれどもひはみ
草そのふ細事ま舞ありてこそ又ふ足音もほ季の風に
朋あり行きま舞の道たゞめしてハ人なるみねをもてて五輪
より少絶憾をかうがゆす中庸も見るの道の端をま舞
車と云ふ易の姓小乾坤の二卦をもきたまひし乾の卦が天
の道ふりまふあるべく卦の卦事地の道ふり事よみぞくと
送程よりも詩の第一よ圓雕をも看取あらるる文主と申す
聖主おお歎とすもひ居を承り勢せす氣て僕よ聖の徳ま
きくが故小天下をも済す万民無くおほほす侍る事よ
聖が則ちま舞り送る事のびくと孫道くれば女とま



たるもの人の妻と申りて行ひれどもまことに妻き章あらまやね
あらまううつてはいこえらまうりんきま
し女孝經を以て御ふお鄭氏の姓を家に帝はあらまうりんきま
ふをあらまを孫へお鄭氏の姓を承き付と御禁中の奥ゆき
とくろ
而よみをとどち移して乞侍禮化の所を教へ古の列女達の御ひをす
志す猪いもすま一久年月をあらすたばく事わるき思ひたまのみ
女孝經十八章紙拂り拂ふれたりたま至乗上天あらの所すれまち
凡人乞奉よつて御生でそむきあらの葛あらくくは書尔ある
之を仰きばう紙がしりくすをまづ利拂る
軍一け事ハ鄭氏夫人の事すもく廟もあく次第大富より賢
ドよめのはくゑじく翁と申して書とより教説小傳へとせん
之を仰きばう紙がしりくすをまづ利拂る
夫一け事ハ鄭氏夫人の事すもく廟もあく次第大富より賢
ドよめのはくゑじく翁と申して書とより教説小傳へとせん
之を仰きばう紙がしりくすをまづ利拂る
天地と人一仲叔

廣要選章 第十二

胎教章

章より母娘やと
きりてみふおもひ

第十六

胎教章

章より母娘やと
きりてみふおもひ

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

母のうだき

母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

紀行
第十

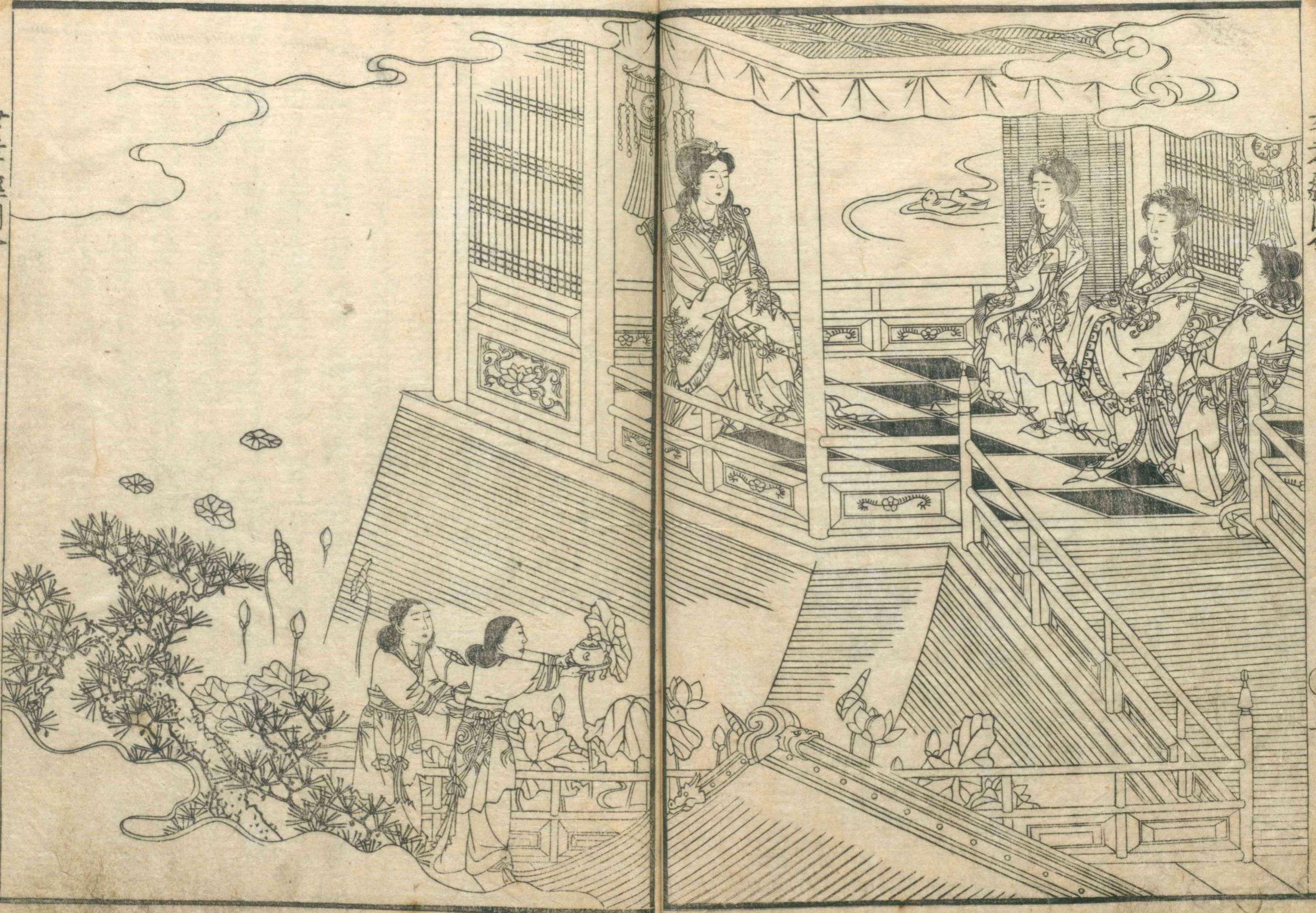
母のうだき
母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき

紀行
第十

母のうだき
母のうだき



得りゆめりおのくわが勤倍をよくく笑入ふとえてはしみねむかひうへりす。書
引の邊城主女英孫もくねあひぬきばせう中ふあゆか女見る人ほんのありんハ帝
所もあれはいまふわざう經て越えうく御小考御あるひんやくく御の令承
はしてたまひて貯身すで年からじ人少すとてまつて宣まつてはうゆるひアゲテはく
経みふわざうがとてりゆて身の御小考御小考御あるひんやくく御の令承
ありんやくべか年う君人あをばすとぞれを見取るぬやどり女ん根とくあと高送目
いろきゆりのゆりあがと女うねふ人をうゆふ少もほどよとくあ有脳一也て脳もあら
うちふかくごはれどれをすふえゆねるねをねがく縫はか手と又何と
ねを小ふくらかしくあをへ並くづばうびらうびも黒案をめぐして送ふたがふる
せうふくらうあらう半小てもうく形とべき半あばんをうねたのばう
ぢわが心ふ善ありとそれよほとて人をうなぐて渡たんかくもうやうふたじく
きそまく隨ひ萬無のんを先にして智画娘がき親小考御のんじゆく幼を惜くらう
ぬ者死もひきなでぬやうふとては是皆女つ徳行ぬ就きく故小自う天理小考御の紫くの
れり尚し事小考乎惟考支子兄弟とく角くも考行きあんがく社徳をかくかばと
兄弟小りうあまうとくあくみむつすれにれねりとく無るうら後あうを

后妃章 第二

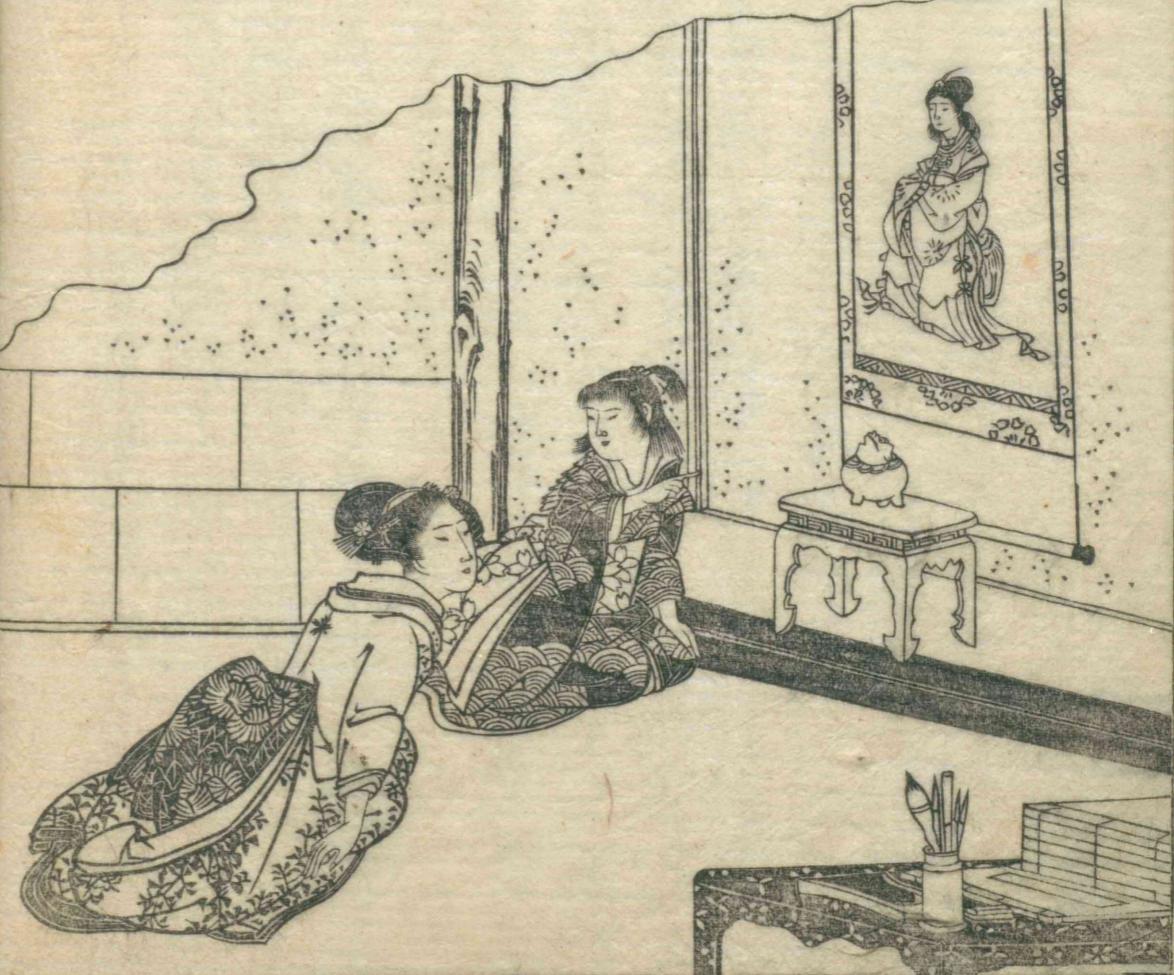
毛待り冥雕龍趾はお義の文も后りう歎も小聖人の御徳をもとて文も
外をああたまひ后内代おあたまひて天下國家を社徳小化しておほに聞
絃うくゆきうゑひ一章次のびう冥雕の義文も聖徳をあうた
まひ又后も卿も聖徳をもとてより小ま婦とねりたまひとて雕娘とりふ水を水
せうふうかじて唯雄あひうじてやうだりきたがひふうんちうく半もあくま
とぬさかりうゑひのう半もぬきがめく文も后り同ドく徳をああたまひとて雕娘のび
まス龍趾の義文もお義の文も后り同ドく徳をああたまひとて雕娘のび
こりくうをせし晝小代とて長人とあうとんじうきはひとて紙のびうたと
毛鷲鷲とりへ歎へあひき草をの娘す限いとあ虫をもふまざきれうはまほきに
原あるゆふうのうあととぞもかくねく半紙のびうをの紙のびうたと
仁厚の徳すはもゆふ御小御も御民も御主もおゆく至る大賢者て仁厚の徳
徳をねりとせたまひぬ文も社官女たちもおれり生ひるかへいふりとて大娘のゆ
形の聖女がりとめ父王の后もとてはつてとてはげ半紙のびうと
ゆふはるれどもうねがもあまうとてはげ半紙のびうと其後紙のびう

如く太姫の居小を取りたまひよ
たが音楽を竹林にてたりむべうり
ふてよ鶴三びふあふ金と鷹鷹琴
去其後后のひんよへひうみり
賢人を得文ふはすほりを
天下れまつまごとお歌をけ
歌しなきとうきゆと絃ひとほ
天あらぬも威徳あらかうかう
はりりたるゆと四海の民おづう
ら音ふうりうめどかりしふ代
ありひきえ行が華の舞ア
被徳千宮幸國子外とツアガモ
音樂のうきひを内ふうせを
それぞれひうふきこゑくめく居の
宮中ふておし紋の御座ヤリ

父君ふくはうなまへ天とお人らやうく笑おまびて后の御身の上までさかくのびく
きれひえんや下ほくとせきの所やとりひて皆くそひまと毛教一教とりる人をうべ

夫人章第三

まんとつへ天と國家のわと船とよがく人わみとあうさんかくはつづくねに
位たうけ玉をかくうばむと隊をれられを常ふいすめてれどり紙をとぎ僕綱の邊
をほりうだーきくわうくふもとあひと傳づわじしるにゆうふねにせあるんをうら密
中のさくらかくはうは見入舞半壁にてうへはすとそしゆくひ女をうちが
ききやくともあはまばえ詩尚書みどり雪賀の書紙とみ徳樂の邊紙わま
かとめへなー賢女ととばうべきが能りゆくて名のたくひろまう徳樂のじんざく
あがて位たうけ玉をもこれを承のれおせみひふあひてかたうてわざま
とあひあひとおひくいはあはまほく半壁にはうへたとあひて家くつたく内小
徳樂ありておひくいあはまほく半壁にはうへたとあひて家くつたく内小
え用ふきて往しておもとれんをあづうふりちかこち紙をあくあくうつた
らばう後づ計ふくんをつまむとくひだしかくもとく紙をあく



徳義をれまむとぞそ社會の人々見ゆ
ひておづくらうありせの家長等すと
お縫さんどゆうすとお半うたがいしこれ
主取まん忠義の徳ようりて次承より周
易乾の卦れどば小岡と引其誠徳傳
而化もあら事ふつゝ主祭とあるい
船を半とたがりぬやうふけすあめをせの
身ふあやまうよこはるる半あくあく
たなきもねほする半せみらふとうて
うれを貰る人をかうじておづくらが
くあうはまの邊にす御くひろまゆと
竹をぬくと御ねべ

邦君章 第四

邦君とりへ國の守社ゆのかくせ半形
むく周公とやせとあつし聖人周徳と

りて書所けくまなまひてよ後づせ法安とさ
たえわきたまよそれくらみくら姦じと
馬くらほもとさくし衣裳ふりくあまや
せふくのかくうあくせんくふあきごひ
てわが徳のぶんふあくが應衣裳はきゆく
かくば尊く社會が小むだ幸ま半せみ
をりひてたつとみみうがはーれとめりく
だかくば尊くして半わがんふも其
かげえあるをみねをたわがりと云兼わ
たじうゆふててうはじぶんのきくん
をくわにわにじくらうてみて行くと小人
のあすむとおづくとおひてせぬがよみ
アマガおもおひへひがくふて行くはい
れつてんとおづくとおひてせぬがよみ

よれりて此のあらはたより上まふ危難を下まほきの小まこと
ゆふかくのどん人へ神廟もおづくさひをあくと擁護すほゆのうる是園のまこと
小みの教訓とくをの取て毛利家整の幕小手ひま敷千手ひま手止手用之を候之幸
とくるの園のせむほ大名の小手ひまえ玉ときたんとお徳ナヒ神廟はうやゆひ
まゆりふたじけぐまく參徳をあらわすとや仕の人感トヒラムニ業を



廣人章 第五

廣人といふ平人の妻が牛形ア平人の妻が
おもひいふ小牛ふうにばわす小利ある
牛形をわ生一人利を得よかうじとれ
ひぞ義理をもあひてなましき利があ
こぢかむとわきひくふも利を得さ
せんとわりへて一義理といふ禮儀の邊で
えりをふー何をもんをえりとてわざ
身とせちふを虚ひもかうに波利を得
がうわうあらんあり社會をよし
し理をわきまきて人をあひべかく波
そのうばびくきくとまうとも小考を
はしてつゝまういとはらまぞ鐵縫
わき波をもくばはとみて男姑も



の衣裳を調へばべ一色の暖仰
付篇は婦女半体甚艱織とく
絃もかへる織の糸紙をうらうるぬりの
心て織縫業の糸紙をうらうるぬりの

衣裳紙とけへてそぞくするぬりの
衣裳紙とけへてそぞくするぬりの

車 開帳 章 第六

嫁の醫姑ふほえゆのひ遣わが又母を乞へ
やきよをむたがはと医姑より總をほくして
ほくまくべ朝の朝の跡小記てとれ見ひほそを
すだ紙る着の紙ぬきか醫姑のかくゆを裏あ
を流きゆほくあくばあくからぬやう小あすく少
タスヘ西寝うつほくせほくはゆにうそを五用ひて
幕うめあくらをつやてはくまくべんはくもふ難いをあれど
正事小とて我理紙をそし絹紙とたとへて禮すが紙
御とこしわらはがくゆふたれねじで毛引懶席の薦小女

有り遠兄弟又娘とりるもむきあせよよめりして娘の家ゆきのあきだわぐ又
娘兄弟よへと紙さかくゆふ醫姑を我綿せどくもひ着紙とねどくとりるぬりの

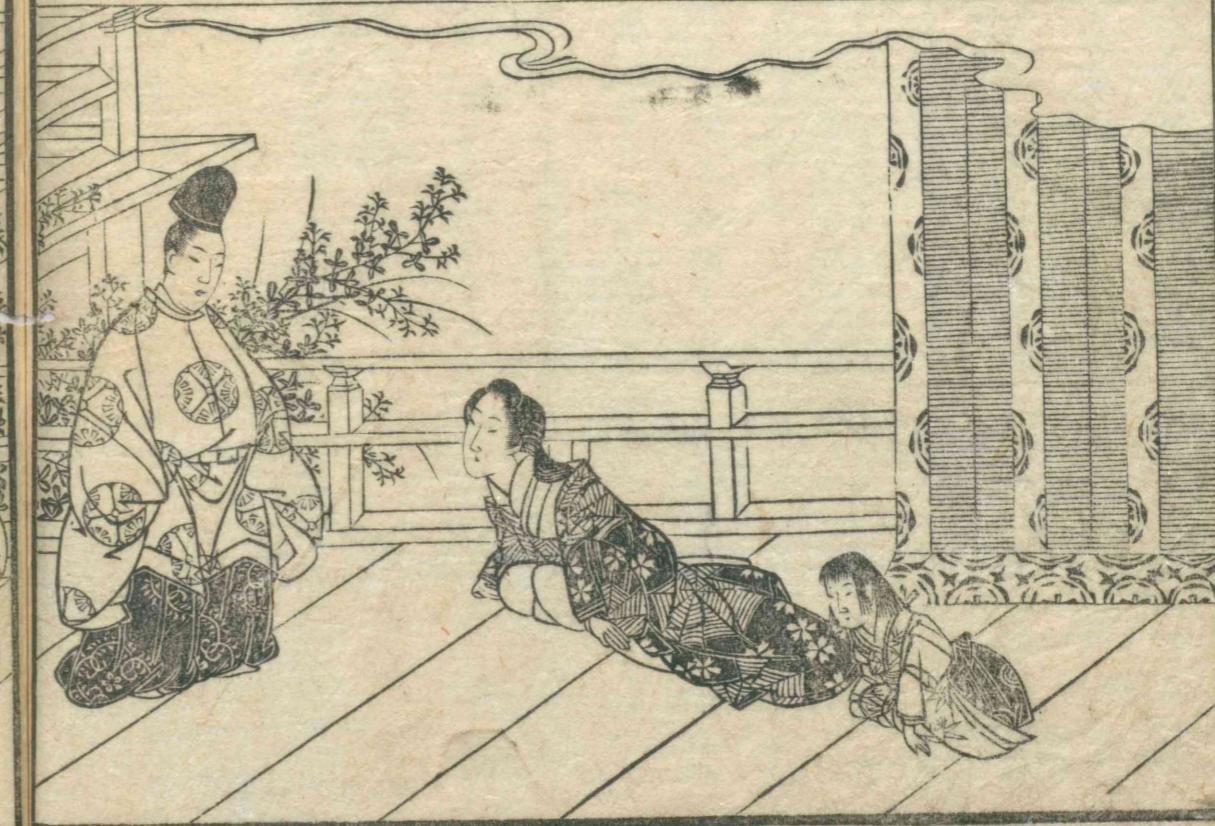
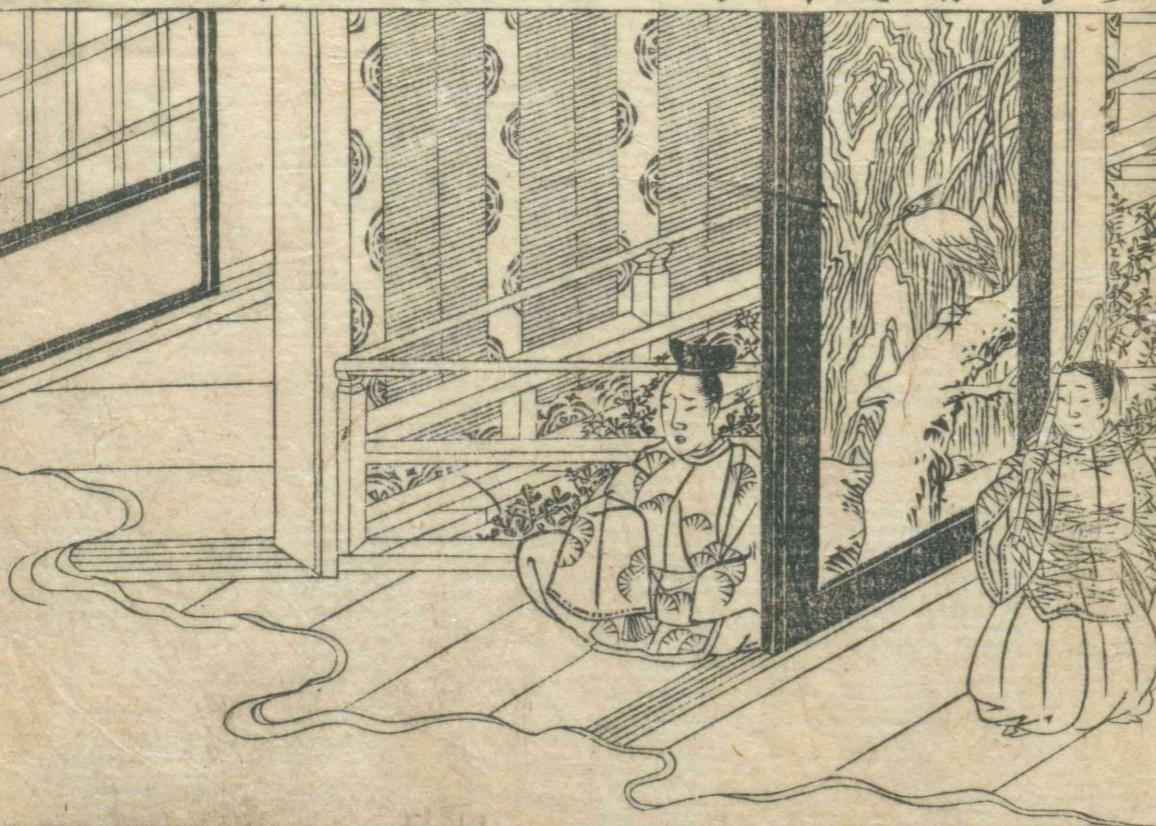
二二 力章 第十

三才とりく天地と人とれあはれりのわらあひ天地の道裡ふたがへぶ体と紙のをく
は腰のこゑ紙へを低くせ女房達な腰の腰とゆみてまへりての
うすた今近ハ女がまも聞ぐ人向るれどまほどかうだまとへるはーれとおぎひまく
ひつ小腰紙かうせおど紙をはるとがまとやさんとばんとばんと曹太郎のほひるのま
かくとてかのくまきえはひるようもはうはうはうはうはうまへ天がよ
たるおふて天經だつとれりのくられゆふいよくはしめわくくばじとまふあきが
はえすナ内々くあじてはぢらてとめりともあをと拂りとくとまくとまふあきが
ありを計と紙の女へあやの家紙ともべきのふあくはまの家あこそのとようわが
をもべき不えんをそめんをうちとよりともあをと拂りとくとまくとまふあきが
おれととばゆの女ふ家かく又天嫁がま天とくらむ女へあやの家よらるよたへ紙を
天のぞくたつとびうちりしてほくしまを玉のぞくたうともとくとくとくとくとく天
の傷かくとよめり紙を紙生じ地の脚ふとまのすまじあらのそれとそぞそぞぞぞ



天ふきが人のうれしを天の邊の邊理せどく
女あはぐ我かやの家があるとひかやとち
とみりありしてほひまをなめとむとこれ
と絶女の彦紙の邊りすゆよ天邊のき
よくにまうるふうのうらわす
び外をゆふりとびきて親を坐へ見
ばうやまひまとたつよひよしはうると
てぬせきだらまきれをわざれひさげせれ
家紙とくとく社わざめてそのはまくふあ
う稀くおひのんをくふをうげくはうると
ある人の内うちもかくひ感じて彦紙と
其の邊ふかくよきて身紙もかくも金をも
をもけくべきと有がくとあくぞ又
我身小からず人徳紙たおれどんある
人の形改をあくひ又人とうやまひと
正をうれ儀の邊あれどんある人をね
ひて人を行ふとあくはくと彦紙と
つまみちびきとゆきだらはだりとみく
らひてゆづだりとゆきだらはくとみく
とみだはくもべき半紙がくくみく
ひいきだくもくけをだんぢる人見るよひ
て歟半紙うづだらのやうづまひ
こころふうけはまはぎりはくとくも
街紙とくとくはくの眼明と格の保其身と
るるもねの邊理をよくにまうるかぶと
ようじゆふまうる人をかるくはくとれ
紙をくわざらたりもつてさうえゆき傳
とりゆくとく後承あべ

孝治章第ハ



よくわからぬ上下よりふるの穂小伏をあくと身のまづうりの文主は后のゆきを委ね
 郡紙の邊紙をして門九族をあくみたまひその外をほうす年をかねふる通
 むじさんと紙にぞしたまふわどかはしてまくに紙といかうとめいきど終紙
 ありまことしだすひーあり門六親までふよ紙をあくまづかまふおきを書む
 と紙ひうふとおりてその正をとり身くさうとあうとあわよ紙をびたまがどとつま
 て春紙をきくめあはよようてあうとあうとあわよ紙をびたまがどとつま
 そめく春紙をまもんへりぬふに鳥をどのたぐひ生ごむらすどくぬのまゆふ
 すとうこゆべて下女おどかうかうとあそぶあそばれ紙をあ
 だまきとおうりかくのかく上りふよ紙をびと紙をあ
 まうきをくわうだらう紙にしてあきごうひつうふよりてまわみえんをよろごばんと
 あまくとくま紙とくわしる人あそゆとそばふらして人年をかねふる
 とくまくやんざるまをゆふかはとそまうかくつうせんまは紙くいと身
 まをかくもあきこはうあうかくせんと人ふようとばさんをりて紙ふはう
 まのをだあくわくへあくきてわうふはきとせんとくわくとくわくとくわくとく
 ようこづくわじふせんとらうとくわとくわとくわとくわとくわとくわとく



紙をかく紙とくわとくわとくわとくわとくわとくわとくわとく
 を紙の織機もう紙をうけたまひて
 かくう波の紙のうふとひとはり
 たゆみのねり女のわくみひじとひ
 宮小まい穂ば門親紙りくふ
 うあまぢやうがだまうみて天社
 ひくとくう紙をうねてたがひ
 うれらせ遊へまうさんひーの質女
 の郡邊紙りくふ上り紙をあがな
 ひーうれをう紙をうねてたがひ
 うけのちひてほりう紙ごとく待
 倪樂の紙ふお紙不思不念平田四
 とくわとくわとくわとくわとくわとく

きれをひき下りて賢人をもうあきたまひゆうのふみ紙すねびそんまたが
ぬやう小きがひりもゆるゆうとひじくらむよ。

賢明章第九

多所の女房運費太家小とり見るは隣くせひに^女まふあきがひはすま
ほるをのきりとみけはつりわらび付きをたまひ智ある女ふすも外あくはさ
ざま計をかくひ志をひ小あきがふをからふて候ふきかとこらふ小夢太家とく
たずひるへばとく天地陰陽の氣候をみて候ふあきのうねが女ふすもあ
おく脇の賢哲のかとれ性を生れつゝその取うさんども或ひへは生き物と
の氣質社會ふとうけひとたくらふあきがひて人戀のわらじふわらひげき
まくらほきつくるにまづかる能智もくらうあり経りうかくのぞくつ
きく城ゆんをもひよあひてと邊境をひくとく人のうへをうけては
とあそびく旅をながみのくり所と見てをとせごくらまづかよるあがごく
うはきつくる雨の智もくらうとあい旅をうりつゝより女ふすも
その智もくらあはしてあくらうなあく旅宿つきをまつゝを磨く
前賢國の御事行きゆうどふわりて御船船て日はくあくまがくくらを
た宋主張向をとふうれてあくへは(を)樊服とりひ女^女被被小きみ出くやうげ
うるへ今月へり年うけひ用そくへせたまひてう月せうままでおくへりせたまひ
わそんねむれにとねがくうけたまひなくわいをまつありとす上うれだまく
てのくはひるへとれをとせ今日へゆりてふく賢人小あひね大體體と我ふみかみ
儀ふゆく日日小見見れくとれもあくえどくとくへ有有あうとくはひる大體體と
え極てや上うるはその賢人小あひね大體體とくへ有有あうとくはひる大體體と
やうく小見又虞丘小あひね大體體とくへ有有あうとくはひる大體體とくへ有有あうとくは
てわくひくれをとくへもひくはひて虞丘小あひね大體體とくへ有有あうとくは
ウかくはわくひくと候ふくふ樊服小あひね大體體とくへ有有あうとくは
のをやくより賢人小あひね大體體とくへ有有あうとくはひる大體體とくへ有有あうとくは
半死いやくは候ふ候ふあくはうふとあきだやくとくへふ宮女のかまくら
くくらまくとくへあづくあちう半死十年らちう候ふくの間もんくふきうたで見
うそあくあびきんがくわく女小あひね大體體とくへ有有あうとくは
きうきの九人の肉もくうとりもはるかふ智小あひね大體體とくへ有有あうとくは
かく、くわくの女小あひね大體體とくへ有有あうとくは

君のやまとを寵あい

たやまとを成神みせし
寵あいばらばりとく

しんまとかくまくち

をかり徳をばそんを、

りいてあらゆだくも

女すむまふほくよち

らしきはわがわき

くーなるうみゆく

れはゆすすけ遊ぶ

ぞわじ紙ゆく

れやけ紙ゆく

遊ふあらえむわ

ためふあーかうん半

をかのとあらねぐ

もあふりしまあ年

もやばくをぬうの

をがるあり志か虚ふ

かの虜丘すみハ東の寧

相とうすよと十年

きうそめうりごと
ももととくのく

ひねわざくらんる

のとくがくせく

國家のはづく

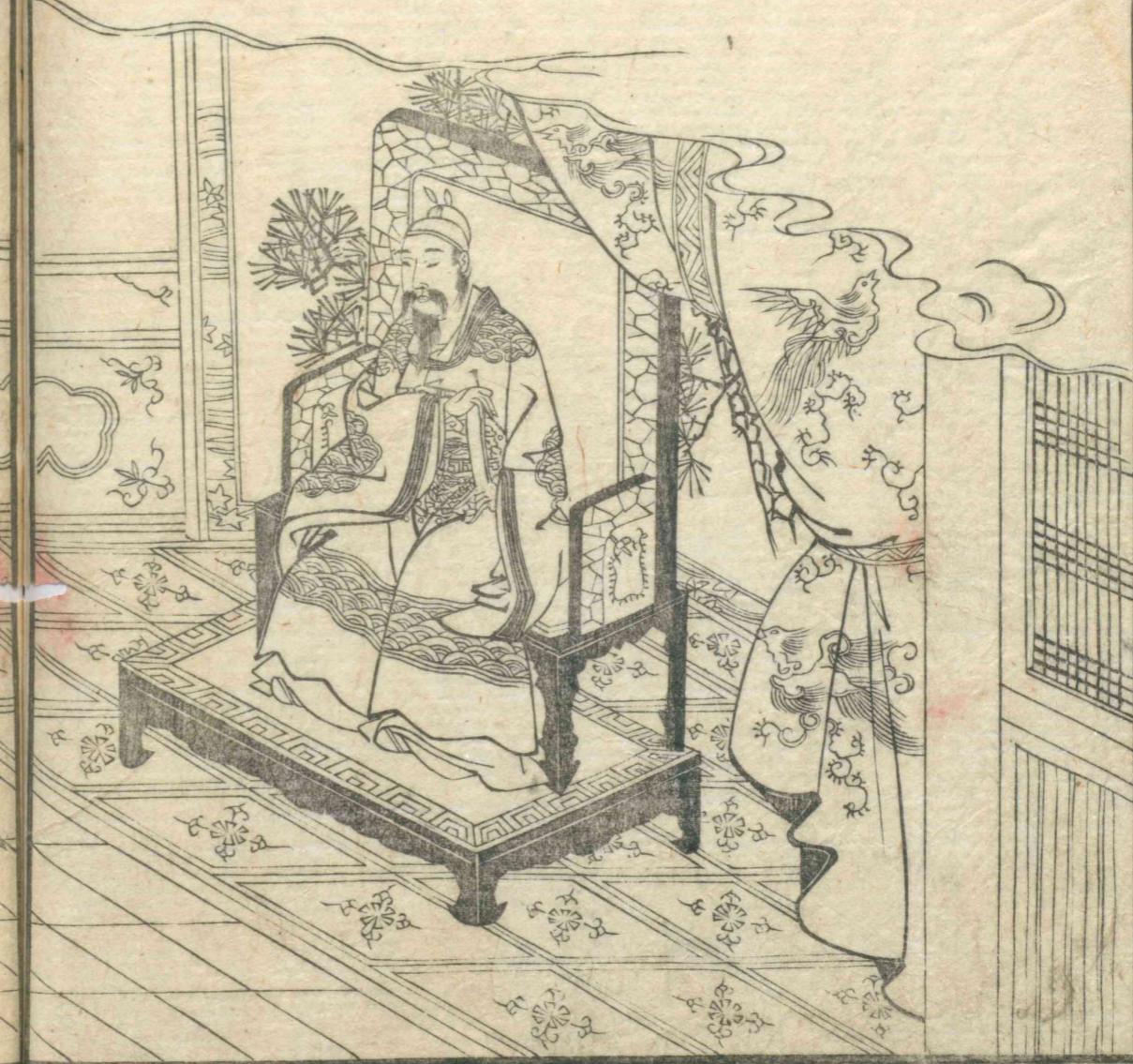
たとけ朝廷の悪人

をもあうぞくだき

闇ぐをもあられ

志をも死きて懷ば

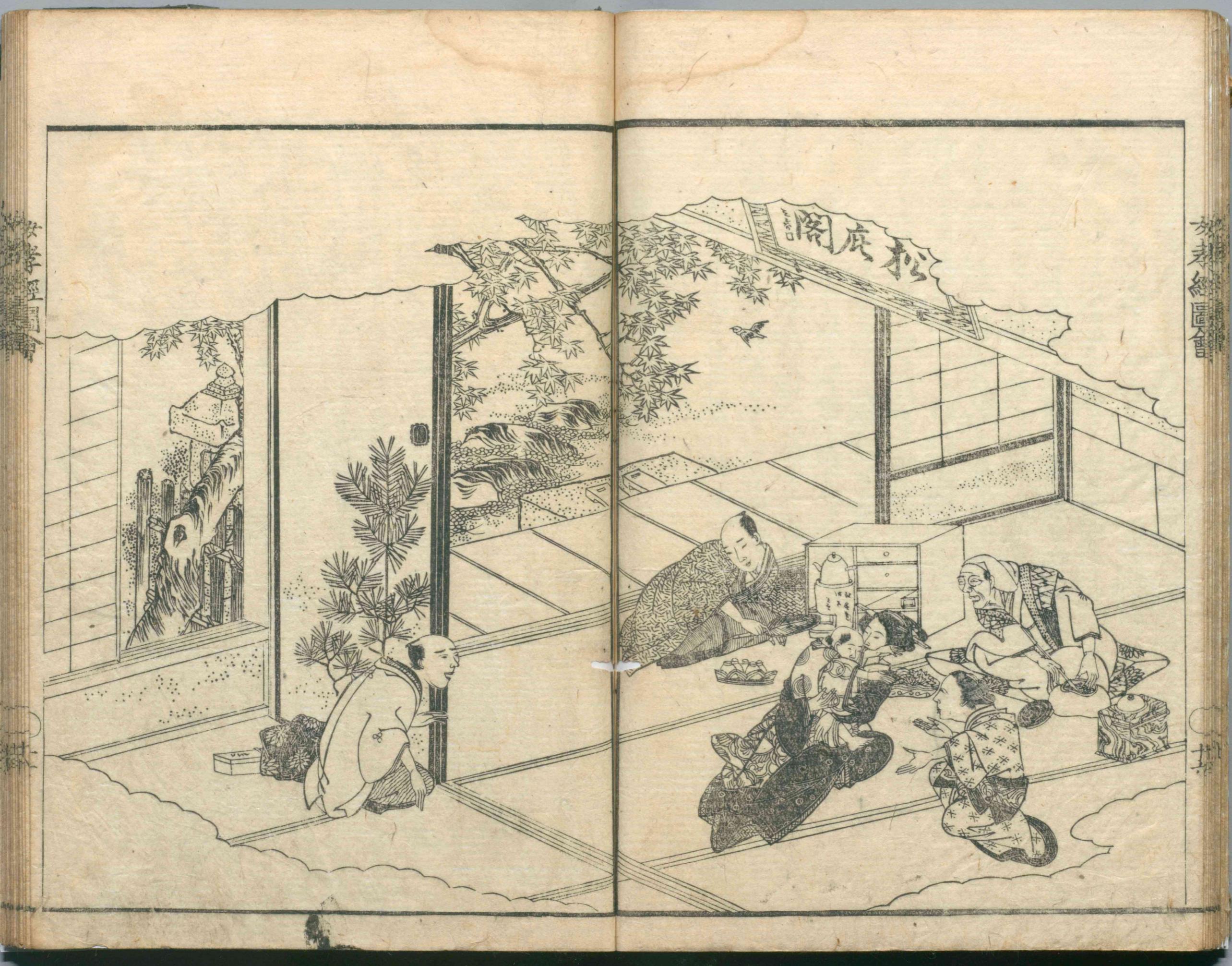
かあ虜丘すみの



賢人との事は少くも勤復よりればえを爲すとねりとねりしあげを
せば、庄主の手紙ありれば、すに、廬丘ふすからうたまへ、廬丘ふす
撫姫が、こゝに、お城ドわがらすすり至極せりとれひそれうわが家、
のむすく、御根もすく、下まく、あ家ふをみく、かせあやう、せめいふふを
て、賢人をねづのきともああて出しなでまつむじとそかりあらふさりしもの
こ孫、孫叔教と、るる、賢人ひつぞしてあくねり、ゆき、ほじ、夷ト、進
宰相のうわと取、これぞ孫叔教と、うりも、下、ゆく、賢人すれぞ國
の主、川、まどと、紙と、うりて、あふこと、ぐくが、幸き、も、下、が、譽の、く、
やもく、おうはう、瑞、國、の、徳、侯、撫、社、國、紙、れ、も、うたん、と、お、り、の、う、紙、ま、う、け
き、代、撫、の、莊、主、は、り、小、霸、主、と、お、り、威、敵、を、天、下、か、や、う、な、ま、ひ、う、て、れ、が、
と、ふ、撫、姫、が、一、云、の、智、あ、を、と、ら、は、し、若、を、い、う、と、れ、て、は、つ、し、史、下、だ、ぞ
や、毛、待、り、得、以、者、昌、失、以、者、セ、と、り、下、る、も、賢、人、を、得、く、ゆ、あ、か、そ、れ、く、小
さ、う、え、賢、人、を、う、し、く、る、意、を、そ、れ、く、下、日、下、ぶ、と、り、る、と、う、私、う、り、や、く、辞、く
轉、矣、人、え、活、矣、と、り、居、る、も、あ、と、ば、を、や、も、く、か、下、し、と、う、れ、こ、や、れ、い、い、野、
ぬ、生、は、き、く、人、と、れ、あ、と、葉、を、と、く、き、く、い、う、ゆ、下、人、を、れ、き、と、お、過、問、か

紀德行章 第十

女、の、れ、の、と、年、は、う、す、御、家、小、髪、キ、か、べ、み、か、ぶ、ト、あ、く、れ、の、と、の、髪、
此、は、う、す、つ、る、ハ、國、ア、社、君、ア、う、や、ナ、ひ、は、く、す、ね、び、ぎ、う、歌、う、御、の、邊、あ、う、す、
や、の、と、う、活、見、ま、い、小、紙、小、御、と、ふ、う、か、ひ、う、色、の、目、紙、は、あ、く、ゆ、く、
と、う、や、も、て、そ、の、死、う、が、敵、ど、た、の、も、有、ゆ、く、り、内、下、く、む、と、り、ゆ、く、そ、
死、た、が、ぞ、し、く、は、と、下、く、眼、友、小、は、ド、う、テ、リ、う、ち、り、紙、き、下、す、の、邊、下、
す、こ、り、く、と、葉、と、歌、を、わ、ざ、と、だ、か、し、て、き、ば、う、紙、ア、リ、の、髪、代、を、も、
歌、き、う、う、五、つ、の、も、ち、を、あ、つ、て、海、よ、く、ま、ふ、は、う、す、御、の、と、ハ、リ、シ、候、ク、歌、り、
そ、の、う、く、の、主、ア、ヒ、と、歌、り、て、か、が、く、ぬ、す、う、下、ま、く、人の、國、ア、と、歌、り、て、ハ、ミ、う、ビ、
か、く、髪、う、少、す、あ、く、を、歌、く、の、人、と、は、ド、リ、く、小、髪、ア、と、紙、も、あ、く、そ、ハ、ぬ、す、う、小、
髪、ア、歌、う、う、人、の、主、ア、歌、て、か、が、く、ぬ、す、う、下、ま、く、人の、國、ア、と、歌、り、て、ハ、ミ、う、ビ、
く、く、髪、う、少、す、あ、く、を、歌、く、の、人、と、は、ド、リ、く、小、髪、ア、と、紙、も、あ、く、そ、ハ、ぬ、す、う、小、
髪、ア、歌、う、う、人、の、主、ア、歌、て、か、が、く、ぬ、す、う、下、ま、く、人の、國、ア、と、歌、り、て、ハ、ミ、う、ビ、



ま婦のまちやうじやうがふだ一

五刑章第十一

替りんとつもとあふ五刑の法あり五刑といふ事とりふ人ひらふりき
まみそとはぢやあへもつもあらみの處のまみをもあう二ふ割とりふ割人
のまみをそどよ取しけつもあ色にうぶ脚とひめのあくまき
さあけつもあ色にうぶ脚とひめのあくまき五色にうぶ脚とひめのあくまき
男女和合の邊れきぬせし女代をうぶ脚とひめのあくまき
きぬとあけつもあ二ふ割にうぶ脚とひめのあくまき
のあ二ふ割とあけ五刑の法ふあくまき合せそこあくまきのあくまき
たる替り女の人まき縫のみとがうねりうの脛人さうわあきたゆる法小
妻代わい出はよせつのあくまきよあくまきあくまき不教う妻をあくまき
五線相続をうけとあくまき縫のみとがうねりうの脣人さうわあきたゆる法小
ち妻とくの四よりまき縫のみとがうねりうの脣人さうわあきたゆる法小
妻代さあくまき縫とびうそつる妻代さる七ふ脚とがくしゆをも妻を
きりばせつの脚とびうそつる妻代さる七ふ脚とがくしゆをも妻を

ひう後をたれあみ縫のみの生るとひう
離がのひうとひうをえてその西会紙
やら絵をとて絵のひうとひうとひうと
ふーわやうかうるんをひうとひうとひう
公戻のひうとひうとひうとひうとひう
を見てもそんなんをとひうとひうとひう
をうきまをとひうとひうとひうとひう
てに邊ふのひうをとひうとひうとひう
西戻の織小金機今色小恋壁とおけを
式威儀是かとひうとひうとひうとひう
たれそかのひうとひうとひうとひう
のうち何をとひうとひうとひうとひう
のひうとひうとひうとひうとひうとひう



廣要道韻 第十二

女をもとあうとみふん紙はしてつゝ
もううあひとあきどふまうとふもちは
じき後くの親よはるるみほふ
だふびんふかきひあきもわうまのた
もうふうきよれとほくばまふつす
かくせんとおひあいとああどふかうけ
うねるとめいとばく容人あくばかくち
のうだよしてうやましちくす又
かくせんとおひあいとばく容人あくばかくち
ばくふうくねどふゆづく隣退くえ
まくにりの紙はくへおりひだくづく
うもひたあくんをあらふんとす
ちてねつとおきくがひねどよんとほ事
てあくすぬつねくりひとと葉くつう
ちとねつとおきくがひねどよんとほ事



あくねうふた取まわぐふまんこのもとふでもそんすねけくびえとてよ
き居し門をひぐるとれかくくびくほくしりくとと種ゆうくばく
とりひをりもてゆくとひ我門見ゆのかくくろく紙おうてぬとも戸と
きみの外までうだく候ふくねく女うんすうふたもむぎき邊うぬを

廣要道韻 第十二

故の陰ふくくうくにしたるびくま婦の邊へ天地陰陽ふくびくたるあく
人像のうどめ取うふるもまへ天註えぐううにてやまふ筋がびく筋引をみ
あらたきのうり女へ地のあぐほて天ふ歩きがびくほてわぐ一つのくびく代た
あくほりてまふはくすくのうりかくねぐくまへなうとれをのあきをみ
御お継のうあ小こくび妻とめと筋道理あきども女へまふくさくせん
とく筋のううびとめりうを筋道りうとくえをわく
めくらしみりとくふくま婦とくうてせちふのまをかくびくふらうたやまひをわづ
ひ筋せう女のあくねをうたててあひひとく遊くもくこととくとくとくとくとくとく
ふくね女めふむうひやうるハがうまのまふとくとしてかくねやまひをわづくひくせん
うくうく筋せとうせうくうくはくうくふてくもくきふあくねくびくま婦とくうてく

かとわるやでくらははりまつまることを女の遂て嫁りだれかは福
うけたまへとさんをよそそ候ふむいぞう人の妻とありたる遂ふるひ嫁さん
やうふたまのまゝ嫁するさんをきくたまへと候つるハ茉莉とり草はそせひ
きくわくわくのまきどもす死やまくはちる茉莉さんをひとふゆふとく牧
とあるふんくちそじ候りありきふあるまふほひあーんむすとふとく翁ふや

いきやうじめきどもなうとれ切絆あうく葉すれむかくのまくちのめくまとくのま
きがまくわくとれりのまんをあへたやまひゑとくいとでう見とそ候びきとく
うらくねりとふきとみほえをだくとねり

又齋の園小蘿玉とや玉おもくまく甚まくと傳妻と二人の女ありまくは是玉のば
んの妻修妻まくはまくはる候の女るより志を屈すまくは聞ふほして傳妻の候小
門ふうりそめ後見玉死たまひて傳妻のうゑの間ふつたはめり志をんじよば
傳妻をにもかくあんきくりとのめくまくはまくはまくは半身ひよまでもくは傳妻を
行らしとまくまく傳妻ふむひのまはひうらの間ふよへ是玉の間ふあくと候承つてまく
うへ思の脚ぬきを今までせざくわをふつくたまへだたてふあくはあくは
年がるむくふかくはば我よほくたまへゆくはくはくはくとそくがくくわをひ候あく
をだくまくはくもくひるたまもくをあきだ今よりほへわきの正殿をうぐ外ふ
候をぐらだくはくの候はわくたまへだいそくはくはくはくはくはくはくはくはく
たまくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
たまくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
うまくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく



主やおもねりたまへこれひどいのふねうり
ま人のためによれ聞かくふらふうにして
づくぶる年紀をもうはきさせ
まうんごうのふ解きけ二つねうへり
なはま人の外へうつだらぐとせ
なはま人のふ解きうりうへり
ううへとまうんごうのふ解きうりうへり
主はめをほしてえふはうる風下へ
主はめをほしてえふはうる風下へ
もあとせまだひのちあぐれとねが
かくおれぬをほしてえふはうる風下へ
そやおとめをほしてえふはうる風下へ
もあとせまだひのちあぐれとねが
ひてたゆむとほされをほぐくもを
やくおとめのんざくばけしてあぐくま
人ふはくそをほつともとをねくねが
ぞじくよてはきわきわきふくふく
なうくあうけひとといでうぐりとよう

半ねまんふはうへもうもやとをう
小酒さけくさうりう指さしをどもまんかくね
のほひるは我身わがみいふおおじして西にしきを
きもつなよのんを石いしはうぐんもそり傳つたる
屋や一わうため所ところがひくはうぶわうせせ
きうぐはなまとたびく幸こうう小こやだよ傳つたる
妻めもせ今いとおきてはくはく我わがみのままが
たうてゆきれりう傳つたるの如ごとしてまんを
えをひくはりとより順じゆする遙とおうまの
敵てき城じゆはつへせてわうつむと遙とお
るよあり遙とおうと敵てきとしてまんをは
おり順じゆする遙とおうてわうつむと遙とお
えを玉たまねきかきみてとめめたまひあと
とまんのかくわせにえふまん傳つたる



ありひりとなぐるふざくめうたすあらがひて御殿を出
たまをありしよとて假ゆゑを傳妻も程より後
びたまひていよくあらはほへたまひりと承人先達の
柏舟の翁小我人匪石不可傳とのるむ禦衣のれ

り紅葉たとひはらばこく候よみげ傳妻のぞと
かく紅葉中くうごく候だなふあく候とく

人く感トロひく宿すよ葉承らが通一

藝の服玉に持ふ身すよとをの御承安小

庭美民と御臺とじてまうふ浦をうり

みぬたとたうたうれとあもきたとく

常の政おきて小玉れいふを不ハ后みどり

小舟出でゆく波く波玉のあすけのふと

櫻くゑく床時をかうせはくへだーとか

く候わきたまひるふげわふー小舟くふ浦水

おびきあくおんだ御玉御使翁とたま



ひて后をもうひふはうふもくうか南陽
のまもきを服玉もあすけのふのとれ
わもれすまひてはえーたまはどく候もや
ひうりそだあひてか半つそりをばのれ
さくとまもあまくつりんを后のとくは
くらはそれ女ハ義理まよりて義和
くそく死たゞと弱士六義小あうてハ死る
る半死ねされぬものとほかうば候ぬ義和
いまととの死候ぬりのあうばたちはち
あらゆがを死るふとくがひきあうと
て死をもそむいてあへーれをば死する
此候づがのまよとれ道死うと候づ
はよの道うとて世ふうくとく
義とすうて死るふとほきあうと



あへてのぞむだち隠りてまづす侍をめぐら
けとて又いもひふるまづけたりんばよの
うちふをやあたうありとうとあるといじ
はりふきまどひじくありたすひるゆと
あん島の繩解小籠（くびき）在處甚ぶ難くと
たゞも疊のいそりある所ふかくねあてゆ
小そのふ親づの幸めぬきつすまきじと
かるくばまこあきこゆりやくころにま
たの賢女（れんじょ）のものたぶまきわくひとあは
くわく女（め）あくひとそやりてはるのふれ親
とあくべるごく美く称（とねり）べとくろんゆうび

廣揚名章第十四

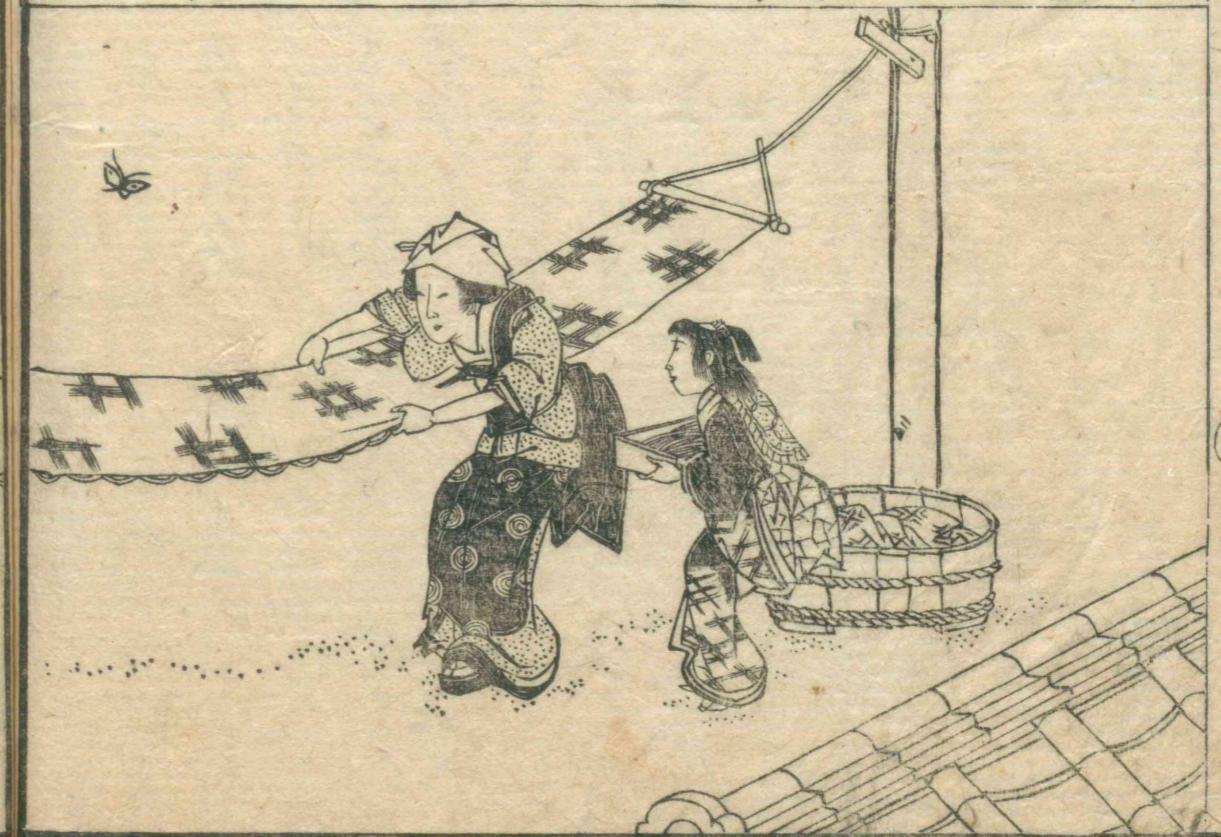
我家（わたくし）あるとれ父（ちち）よ母（おや）紹（せう）うす女（め）よえ
りてしもかるくばまくとまうとあふ旅
つみゆれるものわが家（いえ）ふある時（とき）あ絲

いさうと中（なか）して義（ぎ）あんだよめりうとせ
もかるくばまいよとよくまくしむりのあ
さん（さん）のわくひをうりてかくくぬ
送理（そうり）ゆく史（し）ふかるくばまかくのびくら
こもあり女（め）へくわつとの家（いえ）をよくおさえ
て人の妻（め）たゞ送（おくり）ふかるくばまをバ門（もん）の人（ひと）
もくくはておづくやまをえ名（な）とし
代（しろ）わくはばぐくはまをげしき本
小あくをや

練津章第十五

きのくの女（め）の女（め）とつまらるへ女の處事（かんじご

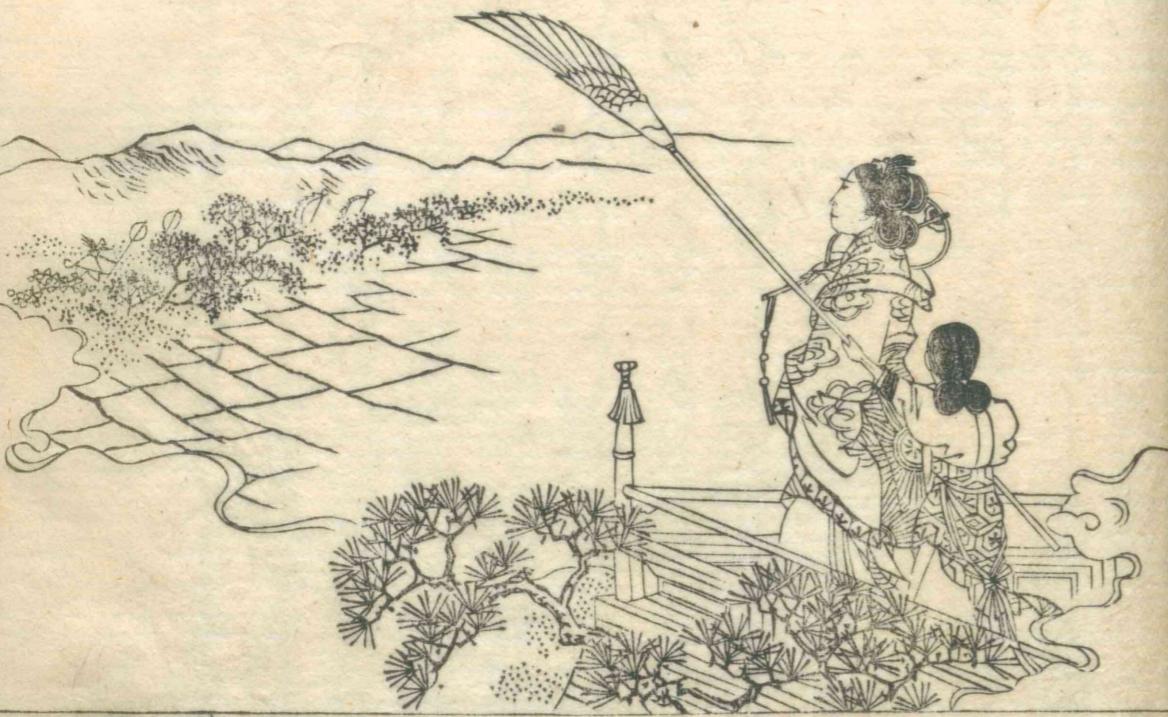
あてんたよく都（みやこ）の義（ぎ）わそむう
てまくとまくとまつまつまくまくまく
がひうやまく名（な）のせふあぐふとりと
ほんくいのがくりふくくいあくまくまく





儀の如く叔父はとくに内と小まことより
としきたまう儀をばたとしまひのりておれ
とおひなとすとそれふりあさがい儀を
やその道理死てぬまきくとすわい儀
きとやまねるをば曹大家こまくとすはい
うへあさがとくと道理をもあくはゆの
まふきをがゆくとすかまう儀を
おれのうへぬをありてもまをいめぎ
るへまをありへどあ道理うれむ妻の道小
あくばさばりす人の賢めとちまとりき
めたまへためく所後りにせはつゝまじ
むく周の宣王は后姜后が御の御の間坐
うり宣王の不疑ノたまひをどう所のみ
愁をやくしまく小志はあひて興ふのほ
してありて此はハビツまつうどく

おこううなまくお居が下したまのひまのうれくふのまはりくとまくかわる
らせなまくへひくふわぐとく形うさくと神身とはまさんとてみのひくとく筋ぬき身
のひかくらぬわろてたまいて女の人わるお巷とりの筋ゆきてまひておんじばさの
安肩をりゆく宣王奏ゆきとほひるべくづくみまけつとうにゆくよゑ王孫禮
義をらしむへせまくせあきはつうぶくふもあくまうたまくとく船是神聲ふく
竹あくわまでふくくばりくまくとく城めはとあた生じて國家やとくねきすう
をばくうえんそれを甚多ふかとねをばくんとおりのお巷までまのひくとくかくひを
待ける船りとむづくまれるを宣王太きふわくとく船をたまひと后のわくしの窮をと
くをりまくとれひやあれれまく里とく城をとく船をとく船をとく船をとく船をとく
船勝あやまくふとくおとくお居の替ふくあくとくいとく船をとく船をとく船をとく
かくたまくとくおとくお居の替ふくあくとくいとく船をとく船をとく船をとく船をとく
ほととてまひ國家やとくわくはりくとく船
又班婕妤とりく女へ班況とりく人のむともありとく後づ小さかくじくまくられを
漢の成帝えくい出しまひて漢宮小をまくとく富貴をとく富貴をとく富貴をとく富貴を
特小出でまくとく班婕妤をとく富貴をとく富貴をとく富貴をとく富貴をとく富貴をとく



園門あつてに物の得りの所料理 すまれ
えどもその所料理を一交すとよきうす
物のよきあらわすが、庭もおがんじるを興
きがくかく有事ハまこと無事のあそび
小娘やうたら狂いあらわすがるんうぐ
とぞ盛幸まうふはへきてこれよりはく
に物のらうびそであたまひ園家のまへり
ごふはくをとどめたまひて其の園のまへ
おきゆう做りるとおんぐれふようてこれを
ありむ天あくあくそひもむる園下に
おたといひと社君を遣ふはへまくら
天あく紙じきじたまへど諸候ふあくをひ
いともほん下わもがの君を遣ふがの
園城じきじたまへど天あくあくそひもむる
園下あをたの天あくあくそひもむる

少ひとハ勅使（さちし）ともあがえ候（あがめ）御半かるむじに代（しろ）の皇帝（カイシヨウ）ハ何せも賢人（けんじん）をこそそ
帝の間（まへ）そば小あきな生（なま）とふうをなまつりおとび候（あがめ）承りまげらうがとた草（くさ）の
みをまむ御車（ごしゃ）小用（こよう）とせりはりくせんとおもひのとくぬまふて候りとそくく
勅使（さちし）小あくがいせりはりくせんとおもひのとくぬまふて候りとそくく
れとおひをうらわめさせくはひと賢（けん）とおひとめくらのちゆん
又華やかな御縁（ごえん）のあそびふぬけ（ぬけ）せたまひて園のまへりをもとおもひとめくらのゆん
強（きょう）とり安（あん）このまへれおひをくすくわらひとめくらのゆん



レシナハギトホリモヒムモル友也バ

其士を名君を名取ば久くあらずをひいさ

もるあれどその父が暴ふはと小娘もひ

だまふあらそひのむる妻にまどきのま犯

遊物の半小娘もう既にまかきむち邊れやド

き邊理うげやされば御の相公のまへ衛女若

植公の名ふ娘りうたまひ邊れるはわをびを

とせむたまひると紙くも嘲るたえまく極

なにあめざりうれをほゐ小ハをひじあらみて

極公にやまちかあらる國家のほつてどと

ひんをりきをなき麻の園わき小娘もほま

天ノ小娘もびきにつけき風とあり作り風とくや

又番の國れ君執公ハ穢娘とりる女小娘りうたまひて竊

きすよもあらじけ其もくふ実御とりくひにア穢娘わがふれ

裏舟をせつぎひそとなくおひ執公ふよりくよの波ひくちはとせうて

はゐふをひる申す紙くもせまのもの重耳美音のあんをば地圓(ねいじゆ)すら第

まいとせてはゐふ我うみるみぞ実御を世つまふなまうとのもひししましたまひ

る重耳执公まく御の聲よびはひうれをふ御の玉重耳の間くはまほきながんが

らが御よせむひをむひ生たまひてを取らる御美とりくわむとあを重耳小め下

べちをしたすひうれを重耳もねつえうびよ御とびれもひうでひ御の御よも

みくねく船きとくをとづめなまひうふ甚後重耳の父執公死したまひと御のくふ

まだまれ國の臣わうじゆもとまくびじかくらうとくの小重耳のひられと聞紀とく

る人うみおや一小重耳紙くも法(法)取(取)はくせそて御の君とほをまう今

て其もももき紙重耳紙くもをひだり重耳紙のふくも

めまをたまひてたまうりがくねがしなりぬを重耳紙下

こちのと紀葉の木ねりとくとまうといふハせんと御軍成

後令(後令)一ノ紙くも御紙(御紙)の如本(如本)と御軍成

てきのとくと御紙(御紙)の如本(如本)と御軍成

ハりととう賢女小てはよせば重耳が御紙うなが

てきのとくと御紙(御紙)の如本(如本)と御軍成



國のあすとあうなべとねがくぢりむかの後金城まではせうらし女又りやくよせり
さば重耳の聞めむかりきとおはにやかの女をとろさせなまひそくわくば
まのちく重耳かめりたゆひとく車圓(車輪)あうがくもとをめだすゞも重
耳、^{さく}車圓(車輪)かくのくられを御妻はくろとみをぐじ居下すと乗あへりうせたまひて
あ底と重耳ふ酒をねわく乗あなまひのあひづきたまひて前後わきまたま
がるうち小は車よのせまくが國の方須(とよす)とて出しまりたまひぬ重耳走いさあたまひ
ていううたまくもほるかの邊城をだゆそたまくはあ小吾の國ふゆたま
アキと重耳は車今をましくれを馬の國を重耳をちきしまつて車圓(車輪)
をまくはあ小吾の國をあくとまくはあ小吾の國ふゆたま
まくとこんひととまく妻御妻のひそかうとまくはあ小吾の國ふゆたま
歎えま遠先用大法といそすまのはくとみゆくとぞれたまふ緒(いざな)

胎教章第十六

人ゆりうて五帝の御歴(ごれき)とてすうとくのありとなりも成へ養人ときりうらひを無
人ともかくてうう仕事とハこれもかわまきとそなうのやくよしはくと車とばを
小はまくわくまくの車(車)をあまくせきとまくはくと車とくわくと車とくわくと車とくわくと車とくわくと車

てよく車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)
と車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)
と車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)
と車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)
と車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)
と車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)をと車(車)



舟儀章 第十七

そん人の舟儀でゐがまぞをやゆの邊
まづ御簾をあまくかぶしてやうぐる
小風ものうじしとせざれてそのる波瀬
しきほしむよハわどをかふまびとた
もをねいをあめすわがなまうみつゆひ櫻は
さるひりふき紫は御ふかうてわがふふあや
すゆきをあふれをもおひてりとあ
船人もうけびてあらう男のうみふら
ちのとうよりおのねとお西面かの力角を
をすくせつねくもうちおとと女船手、重
お座せばねうだすみてねくへどばつれじ
おり山景社送を取つてを歸途おはよと
おまえをあまくしむー小景社送はまく出
とれの親小舟がゆくとひて眼をこひ



御理きるあうとねふひるがやごとかくひ
たまひへとせぬ懊惱とほひるべんへ切き
時うのぬ小弓すろねうれを今我つう
らぶあふ孔城のんねうむひ船我替う
そくが傍りがあうごゆすふをだんーと
てひそう小隣の浦を實うの盈あ小弓と
たまひは脇と形んはてふ人のゆく
お城をふそぞゆふもいたまゆかくあ
らまゆれをあうど毛詩小敷海爾あ
式穀似鑑とりらうわ人のあやくみ
ち死劍りくせ社あうれへた庵を
むをれむおうげくもやのやくすゑ
たがひくとくねりもがゆとい無体
う後承承

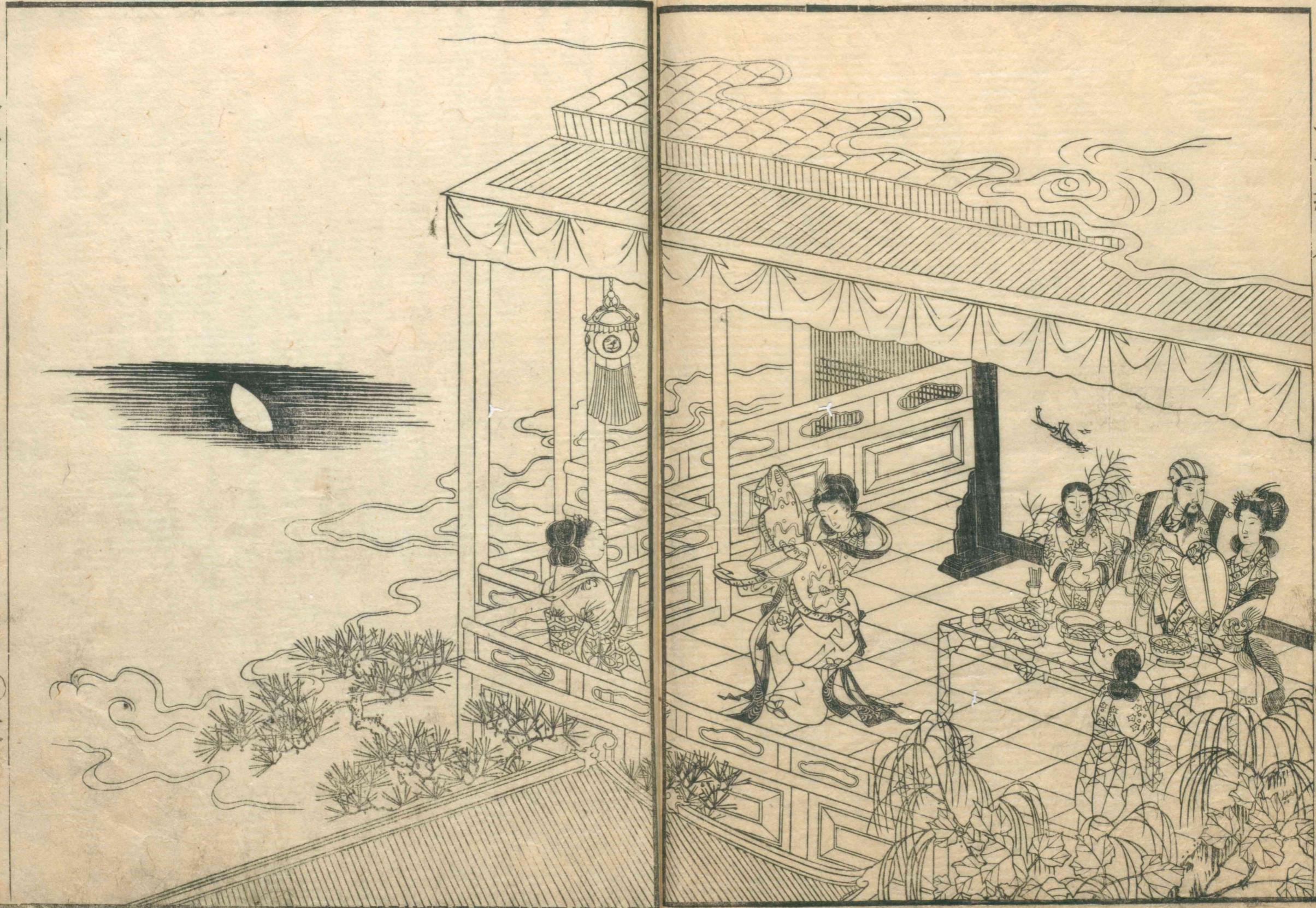


卷之三

世

拳栗 章第十八

主徳の女房たちやされりて女の方に送るまへに角で申あはれりふせうく
けははう仕事も我へととおりわらう形う身をひきどりかよがるに通へま
べくあひ仕事をしてあるまぐんをほじうひはもん全称がい儀ううり
そまくもあしれあをもひ有り女もあまことまうひ仕事やとひの仕事小
その仕事がうすもうけたまうたくありひ仕事もとやまれるを申大家さん
の仕事ひうへゆくむくもうれじあをもひうる女あまくおもくおもくおもくおもく
さいためーもあうぶ院をく禮りきをまくもー夏の禹生れあうた
まいーとおへ塗ちみ氏のむもあせらうたましてとおふ聖樹すくえを天下をまく
ねえあうはくよりそのお孫萬葉ふりうりて天子めしるひなやくへ殊特とりく姫
小娘うたまひて玉城りくうてもをがまうう形をりうくふをほくまうけとり
て池よたく温れうあおだう死きらあそびなまきて天下のまうがとおもうり
たまひゆううり入殿の湯玉れおこうたまひーとおへ有莘氏のむもあめうらうたま
ひてとおふ聖樹をあくはしたまひれを天下をまくあとは里樹の形すまうを
付まふりうて天子めしるひなやくへ殊特とりく姫
酒をうけく池とくさうねを林ねはしてあとと女をとおはがうとお
ちままで秋のらくはも見れくはくもあくは温れうあそびをほく天下のまう
小わううたまひー史よりまき周の世のさくへ続りし太玉社御小玉季とや次興
ヨキシくて川石を任とおふ聖賢計政樹あくはしたまひを任の臣服す文
とお次大父のほきなまひて周は代をもおこぼう仕事うりそのお孫萬葉
ひうて天子めしるひなやくへ慶姫とりお小娘うたまひて申崩とす次崩を捨
たまひ承服のあひ承服をもおじしらひたまひてひまく慶姫の名號號したま
ひううふりうてわくへせくやせびを響したまひて申崩とす次崩を捨
くおじし歎ぬみせらとりふまつよと火の名號とお名前と玉城小大半御者方
とお火の名號ふくは火の名號あぐれを諸國の人々火の名號もすまか小娘
とお御うそだうけつを来るあがとの火うりあう處ふはとた火の名號あが取の故
もわうがおは諸國の人々うけつをあうわと死きさりぎたるうれる處をみく
慶姫あり活くわくひううひうれを画玉すれを死たくみ出しきるよとれども



たまへとくらうはくのうへはあきしれりんをほくへ諸國のくわ例の慶祝のたれ
 どもひ得くとせあへばかくらるてふえびもの國より幽王殺せらるを小野せえ
 りりんを幽王件のれちへはあがたまども諸國の人々うてうすはせどと歎せぐだき
 宮無人あうるんを幽王はりふえびとふほろがくれ天お城うしるひれまひき
 それらのためへ死りゆかがえみを器より下れた女小娘うなまへ帝へ天子をう
 しめひかとお絶ぼへなまへとうたがひほこしきがどめにゆふうだく厥帝りのう
 ふりくねをひくとせ小娘うり做ぶを難かずばうかとほろやへぎりもとまゆく
 べき事さじはかる通理うれをもそれいはむ運きてふゆうどや
 まこと西宮の懲懲へ惠帝のあひ形り御内御清媛とやくめうり又南宮とや
 金の底よりはあくとまき娘うんふくとめ御清媛とやくめうり又南宮とや
 奏送ゆくはくとあひとれすとれすとれすとれすとれすとれすとれすと
 あれを其腰へ御をうげつを娘の腰うけて膚肉のみたちまち小娘も死まふとそ
 もうなむむほゆめしゆう北宮御死すと聞、事たびとめうりとれすと
 て南宮もむだまひとまくふくれをいすとめうなまがうりとれをあくどう眼とふほりとそ
 て毎邊歌うとかまくとあゆ御へ惠帝のあうけ腰の間と懲懲へあひりうくの



りつたり引ひうけ後言をほほあす惠
 帝小太年少は後をたひりんを天子の
 人々の後言をとおふれとろまれなま
 なうと死うれみあく御死うみゆと
 とがうりと甚りきどりうはよりれを
 謞王傳ヒリヘ人猿般をかく。戰アリ
 宮中へまはくはあくも國をとる
 儀儀りぬとんらせためへはあくも國を
 暴進ふてまんき娘うれはあくも國を
 まくとまくと難ひと難ひと難ひと
 又陳の靈公の國下へはく御叔とりひの西
 ちの名へ夏服とぞやくは靈王御叔
 小あそ一ま次ゆるれ寧儀御父とり
 人の虫頭の臣下とぞうなまひとが隣
 叔が妻夏服小密通あるひうる潔御

りの歌局せ半紙筆より後一か月がたま
れりひきゆいさめんをばく御治する御

たまひていふく不義の密通をひ

かきおり候つるうとれ墨を密

通ありたる夏姫づの夏微鈴が西

行小舟じ小舟此行れいこうとれ墨を密

通の出頭社臣れ寧儂行又

人集たり酒宴あらば

よりて靈公たゞ人を計く風

ひろはあの夏微鈴かほう

たち孔寧儀行又のあくみ桂

柳れどそのはひるげ

あ人の臣脚くわをたてやを

くへ柳の匂きみゆゑ

さわわせくは靈公と

せうがか小密通こもじゆうと

まくを仰りて段落だんらくと

ぞりじゆる夏微鈴なつみずねよ

うれをばく日が後の我わお

小密通こもじゆうとあひる事

けきけきかよびくゆゆとも

ゆんふおりひびくふ聞き

今まくわ我わまくとてま

ありてはたと人ひとを

のほはと口くちと

走はしひ歌うたと口くちと

馬うまの肉にくかくれ

あそ靈れい宮ぐうの金かな

と絹きぬひはる靈れい

公こうと付つけ穀こ一いち度ど及およ

孔寧儀乃父の夫人がこれをみそきり紙にそんぞう書ふ誓の團アラサゆきけ
さばせ其の國にあらはるく候合して隊の君殺されは(むとひ)時節あうとて軍をわに
城の國故日後がく夏微歸をもみて車ざなすがせられらるうれよううれふ夏微
微れかうて二年もあつて紙殺一はれども君死わがふ紙をわがふもよ
うはがにふせられ二人の露也紙誓の團アラサゆうあらはひ小隊の團を誓のく
みて紙を做る事も取られ夏微一人が微死すとくわたり做ををかくのと
女ハ西移城を後至極とうじ紙ぐでげほ小女の行うれむれひのことをかくめく
あうれむだるの女たる人これをみそきり紙書ふ勧まおうんとあうんをよしと
がえわきまでかせおう取ひほくあみ紙く書き事ふこうせ

孝經厚待経

條木書庫

出像

村田嘉言

淨書

浦邊良齋

鄭氏女孝經圖會

出

曹大家女論語圖會

近

曹大家女誠圖會

出

明孝慈列女傳圖會

刻

文政十二歲己丑春正月

一

江戸下谷池端仲町

岡村屋莊

助

大阪心齋橋通博勝町

加賀屋彌

助

書肆

同

同

彌兵衛

群馬県立図書館



0664974-3